

# ネットの安心・安全シンポジウム

参加費  
無料

## GIGAスクール時代の ICTリテラシー教育の充実に向けて

オンライン開催 (Zoomウェビナー)

定員 200名

2022  
8/25 木 15:00  
17:00

参加費 無料

主催 一般財団法人  
マルチメディア振興センター



GIGAスクール施策により小中学校での一人一台端末配備が着実に進む一方で、ICTを上手く活用して授業内容の充実を図ることに苦勞されている教育現場も少なくない。今回は、社会全体でデジタル化が進展する中、将来的にICTリテラシーの高い人材を輩出すべく奮闘している高等学校の取組みを議論することで、その前段の小中学校の取組みに参考となるような示唆を得る機会としていきたい。

なお、今回のシンポジウムには各高等学校の生徒の皆さんにも参加いただき、小中学校の段階でどのような取組みが望まれるかについても議論いただく予定である。

### コーディネータ

竹内 和雄

兵庫県立大学 環境人間学部 准教授

### パネリスト

武藤 久慶

文部科学省 初等中等教育局  
学校デジタル化プロジェクト  
チームリーダー

丸山 岳志

兵庫県たつの市立東栗栖小学校  
教頭

及び

田淵 明久

たつの市教育委員会事務局  
教育管理課 学校教育課 課長

澤田 真泰 (+生徒)

北海道石狩南高等学校  
情報科主任 教諭

浅沼 翔太 (+生徒)

東京都立美原高等学校  
情報科主任 教諭

米田 謙三 (+生徒)

関西学院千里国際中高等部  
進路センター長 教諭

藤井 美凧

デジタルアーツ株式会社  
マーケティング部 副主任

侘美 千夏

日本マイクロソフト株式会社  
文教営業本部 事業戦略担当部長



お申込はこちら

<https://www.fmmc.or.jp/activities/kenkyukai/kouenkai/20220825.htm>



お問合せ

一般財団法人  
マルチメディア振興センター

総合企画本部： 山本・三橋

TEL 03-5403-1082

FAX 03-5403-7101

E-mail fmmcb@fmmc.or.jp



## GIGAスクール時代のICTリテラシー教育の充実に向けて

### パネリスト＆テーマの紹介

#### 文部科学省 初等中等教育局

テーマ

「GIGAスクールの現状と課題」

概要

GIGAスクールの現状と課題について報告します。

報告者

武藤 久慶 様

初等中等教育局学校デジタル化プロジェクト

チームリーダー

(併) 学びの先端技術活用推進室長

(併) GIGA StuDX推進チームディレクター

(併) 初等中等教育局企画官



略歴

2000 文部省（現文部科学省）入省

2001 教育課程企画室係長

2003 行政改革推進室係長

2004 人事院長期在外研究員（アメリカ合衆国）

(Harvard Graduate School of Education, Boston College TIMSS & PERLS Center)

2006 大臣官房総務課法令審議室専門官

2010 北海道教育委員会出向（教育政策課長→義務教育課長→学校教育局次長）

2014 初等中等教育局企画課 教育制度改革室長補佐

2016 外務省出向（在ブラジル日本大使館広報文化班長・一等書記官）

2019 高等教育局企画官（併）高等教育政策室長

2020（併）大学入試改革実行プロジェクトチーム企画官

2021 大臣官房総務課副長

2022 初等中等教育局企画官 などを経て本年6月10日より現職

#### 東栗栖小学校 & たつの市教育委員会

テーマ

「自分の力を伸ばすための1人1台端末の活用を  
めざして ～見てきた成果と課題～」

概要

1人1台端末を導入した令和3年度は、とにかく「慣れよう」、各教科や校務等で「使ってみよう」ということを大切に、全ての教師や子供が使えることを目的としました。その中で、管理面や情報モラルを含む日常的な情報活用能力の育成が課題となりました。今回は、具体的な端末の活用事例や情報モラルに関してのトラブル対応事例、また中学生サミットに於いて、中学生とよりよい端末の活用法について考えた実践について紹介します。

報告者

丸山 岳志 様 & 田淵 明久 様

略歴

丸山岳志：1973年生まれ。小学校教員、たつの市教育委員会指導主事を経て、令和4年度より兵庫県たつの市立東栗栖小学校教頭



田淵明久：1969年生まれ。小学校教員、派遣社会教育主事、たつの市教育委員会指導主事を経て、令和3年度より現職。

たつの市教育委員会事務局 教育管理課学校教育課 課長

#### 関西学院千里国際中等部

テーマ

「生徒の気づきと学びの最大化」  
—BYOD6年の成果と課題 および デジタルシチズンシップの育成—

概要

学校創設時からコンピュータ教育に力を入れ、2009年に教職員・生徒・保護者を対象にGmailを導入し、2012年にはiPadを導入。2015年に高等部は文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、2017年にBYODをスタートした。

コンピュータ基礎という教科で携帯電話、PC利用のマネーとルール、守るべきものを身につけ、情報リテラシーでは、端末の正しい利用方法を教職員が関与しながら徐々に達成度指標を持たせて学習に取り組んでいる。

報告者

米田 謙三（+生徒） 様

進路センター長主任 教諭



略歴

学習指導要領等の改善に係る専門的作業等協力者  
総務省 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース委員、ILAS作成委員  
経済産業省 未来の教室 STEAMライブラリー WG 委員  
内閣府他 6省庁共催 高校生ICTカンファレンス実行委員長、等  
教育委員会・教育センターなどでセミナー・講演多数  
教科書・問題集・参考書他 著書多数

#### デジタルアーツ株式会社

テーマ

「フィルタリングの普及啓発活動について」

概要

セキュリティソフトウェアメーカーのデジタルアーツは、ご家庭や教育現場へ広くフィルタリングサービス（「i-FILTER」シリーズ）をご提供しています。今回は、児童生徒に安心してインターネットを使ってもらうために、弊社が行ってきた取り組み（フィルタリングの機能改善、普及啓発活動等）について紹介します。

報告者

藤井 美風 様

マーケティング部 副主任



略歴

大学在学中から警察庁職員から指導を受け、情報モラルの啓発活動に協力。

大学卒業後、デジタルアーツ株式会社に入社し、社外での勉強会やセミナー等を通じて会社やサービスの魅力を伝える業務を4年以上担当。

情報セキュリティや情報モラルに関する啓発活動にも従事し、中央省庁や全国各地の行政、教育機関、PTA、NPO等の要請による講演活動を実施。

#### 北海道石狩南高等学校

テーマ

「しゅちやダメ！の先を考える情報モラル教育」

概要

生徒から、学校紹介とコロナ下で実施された遠隔授業、個人用端末の使い勝手や改めて感じる高性能PCの必要性について報告します。

教諭から、個人用端末（Chrome Book）を使用した（Jam Board）情報モラルの授業を紹介します。

報告者

澤田 真泰（+生徒） 様

情報科主任 教諭



略歴

北海道札幌市出身47歳。顧問を務めるコンピュータ部ではゲーム・映像制作などクリエイティブな活動の傍ら、国家資格を取得。また、各種大会に参加している。2020「情報通信の安心安全な利用のための標語」学校部門において総務大臣賞を受賞。

また、発表する生徒は「北海道学生アプリコンテスト2021」において高校生初の審査員特別賞を受賞。

#### 東京都立美原高等学校

テーマ

「都立高校での学びはスマホ端末の導入でどのよう変わったのか」

概要

生徒一人1台端末があれば、個別最適化された学びや「主体的・対話的で深い学び」が促進されるだけでなく、生徒のICT活用スキルを高めることもできます。生徒一人1台端末の導入により、都立高校での学びがどのように変わったのかについて本校での実践事例等を紹介いたします。

報告者

浅沼 翔太（+生徒） 様

情報科主任 教諭



略歴

首都圏の私立高校3校での勤務を経て、2019年より現職。情報処理安全確保支援士（第020163号）。日本ITストラテジスト協会正会員。専門は情報教育（モデル化とシミュレーション）。2021年度 情報通信の安心安全な利用のための標語（学校部門）において、総務大臣賞を受賞。第17回 IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2021において、優秀活動事例賞を受賞。

#### 日本マイクロソフト株式会社

テーマ

「ICTを活用し、学校を変える仕組みづくり」

概要

マイクロソフトは、WindowsタブレットやM365 for Education等クラウドサービスを提供しており、学校現場でも広くご利用いただいています。GIGAスクールでICT活用を試用錯誤されている中、ICT活用が進まない自治体・学校への御支援を通じて得られたこれまでの経験をふまえ、学校でのICT活用を促進するためにどんなお手伝いをさせていただきますか、その結果学校がどのように変わるのかをご紹介します。

報告者

侘美 千夏 様

文教営業本部

事業戦略担当部長



略歴

2008年よりマイクロソフトに勤務。文教営業部にて全国の教育委員会・大学を担当。GIGAスクール構想前から小中高でのICT活用に関わり、現在は文教営業部事業戦略を担当。

#### コーディネータの紹介

シンポジウムのねらい（概要）

今、子どものネット使用についての大人側のスタンスは大きな転換期です。これまでの、フィルタリング等、基本的には「禁止・制限」のスタンスでした。しかし、GIGAスクール構想で、小1から中3の子どもたちが学校で情報端末を使うようになり、国全体がネットの「リテラシー」に大きく舵を切りました。そういう歴史的な転換期の今、産官学が一堂に会しこれからのネット利用についての方向性を議論します。さらに、高校生も参加してくれしますので、地に足の着いた議論ができると期待しています。

竹内 和雄 様

兵庫県立大学 環境人間学部 准教授



略歴

公立中学校で20年勤務後、市教委指導主事5年を経て、2012年から現職。専門は不登校、いじめなど、「困っている子どもへの対応方法の研究」だが、最近は子どもとネット問題について研究している。

文部科学省有識者会議座長、総務省スマホ連絡会座長など、各省庁の子供関連の委員等を歴任。「10代と考える『スマホ』」（岩波書店）、「子どもスマホルール」（時事通信出版社）など著書多数。2014年ウィーン大学客員研究員。